

1.3 生物多様性

ここでは、河川における生物多様性と河川環境区分との関係を整理しました。

【調査対象環境区分と確認種数】

(魚類調査)

・調査対象環境区分の違いによる確認種数の違いを確認

生物多様性の指標となる確認種数について、調査対象環境区分との関係を整理しました。

その結果、最も確認種数が多かった調査対象環境区分は「湛水域」、最も確認種数が少なかった調査対象環境区分は「早瀬」でした。

(資料掲載：1-21 ページ)

生物多様性の指標となる確認種数について、調査対象環境区分との関係を整理しました。なお確認種数については生物多様性の指標とするため、国外外来種は除いて集計しました。

調査対象環境区分の設定は、河川環境を以下の5環境に分類したものと、参考値の「早瀬+淵」「その他」としました。

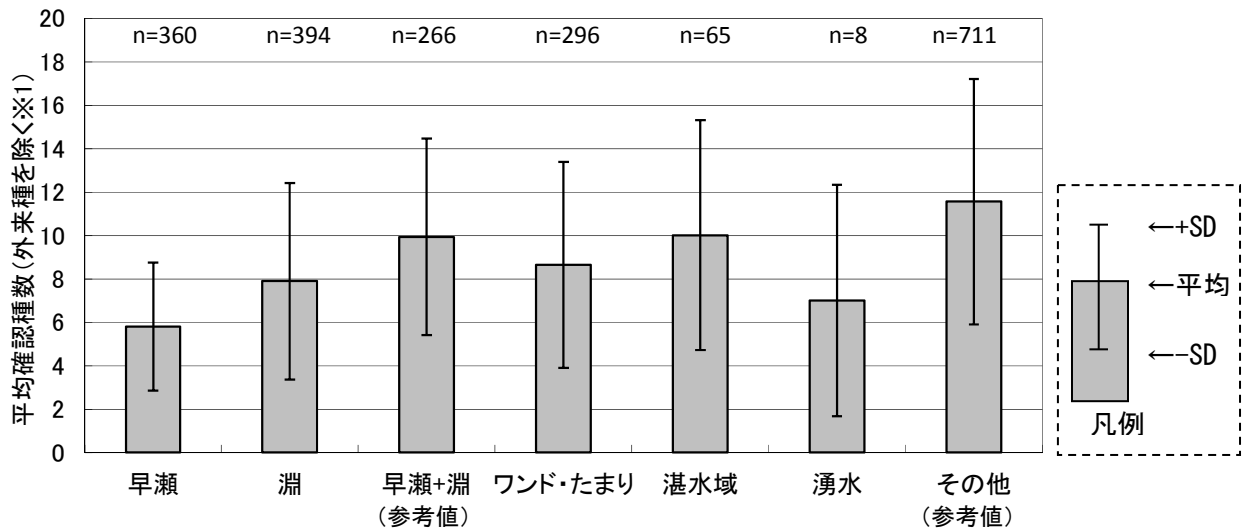
調査対象 環境区分名	調査地区の設定場所
早瀬	目視観察において水深が浅く、水面の乱れや白波が立つ等の特徴を持っている場所を「早瀬」と判断する。
淵	水の色が濃い等、周囲より相対的に水深が深くなっていると思われる場所を「淵」と判断する。低水路全体で水深が深い場所が連続する部分（通常“とろ”と呼ばれる）は「その他」に含める。
(早瀬+淵)	河川内における、淵、早瀬の連続による確認状況を把握するため、上記2区分の組み合わせがみられたもの。
ワンド・たまり	平常時も本川と連続している止水域や高水敷にみられる閉鎖的水域等、河川区域内にみられる河川の通常の流れと分離された水域を「ワンド・たまり」と判断する。基本的に、河川の通常の流れと分離された水域と認識される場所を表現するものとし、本川に連続する細流や水路等に形成される止水域についても含める。
湛水域	河川横断工作物等により通常の流れがせき止められ、湛水している区間を「湛水域」と判断する。流入部における湛水域の境界域は、水面勾配の変化点までとする。
湧水	目視観察で水底の砂礫の舞い上がっている場所や、水温や水の色が本川と異なる等の特徴をもつ場所等を「湧水」と判断する。
(その他)	上記以外の平瀬、とろ、干潟等については「その他」に区分する。

※ () 書きの区分は参考値

整理の結果、調査対象環境区分の違いによる確認種数の違いが確認されました。

最も確認種数が多かったのは、調査対象環境区分が「湛水域」の環境でした。また最も確認種数が少なかったのは、「早瀬」の環境でした。

「早瀬」の環境で確認種数が少なかった原因として、流れに適応した魚種が限られることが考えられます。また、参考値の早瀬と淵の組み合わせ（早瀬+淵）では、「早瀬」、「淵」単独に比べ確認種数が増加しました。



※1 確認種数の集計は、環境区分ごとの確認種数を平均化した。

調査対象環境区分別の平均確認種数

調査対象環境区分

河口域干潟の多くは「その他」に含まれる

・コクチバスは分布が拡大傾向

特定外来生物に指定されており、在来の魚類群集への影響が懸念されているブルーギル、オオクチバス、コクチバス、チャネルキャットフィッシュ、カダヤシの5種をとり上げ、平成26年度調査のうち一級河川の直轄管理区間39河川で確認状況を整理しました。

このうち、コクチバス、チャネルキャットフィッシュ、カダヤシについては、分布の侵入・拡大傾向がみられ、ブルーギルとオオクチバスについては定着が示唆される結果となりました。

(資料掲載：1-24～1-38 ページ、1-77～1-78 ページ)

国外外来種の中には、レジャーや養殖対象とした魚類の輸入や河川等への放流などに伴い、本来は生息しない日本国内に侵入し、河川等へ広がっている種が数多くみられます。

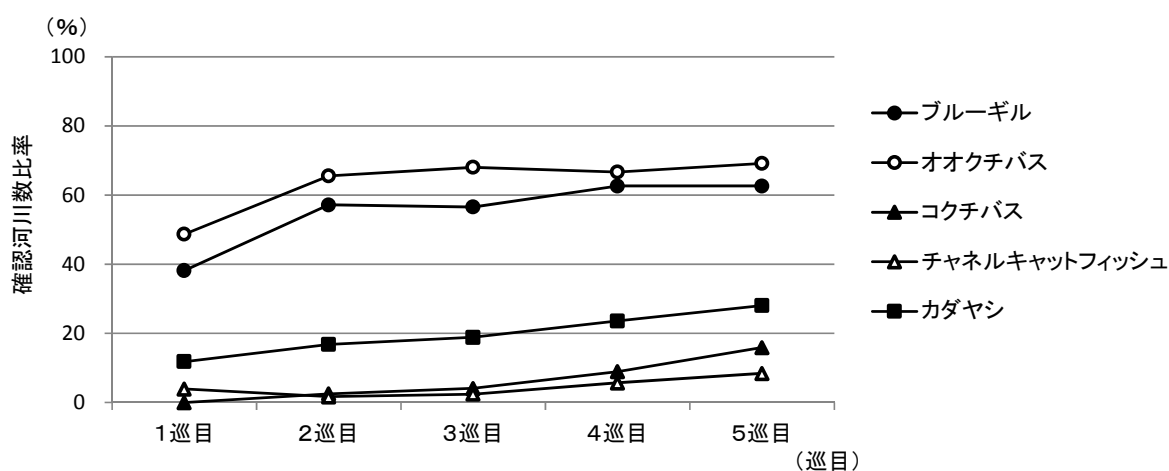
このような人の活動に伴う生物の移動と定着により、生態的に有利な外来種によって在来種が捕食される等の影響を受ける可能性があります。

ここでは、このような国外外来種について1～5巡目調査全体の分布状況を整理し、分布拡大状況を把握しました。

※特定外来生物とは、『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（2005年6月1日施行）』により、輸入や飼養等が規制されている生物（生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれる）です。おおむね明治以降に国外から導入された国外外来種のうち、生態系、人の生命・身体および農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがある生物が指定されています。また、生態系被害防止外来種リスト掲載種は、外来生物法に基づく飼養等の規制が課されるものではありませんが、これらの外来生物は生態系に悪影響を及ぼしうることから、利用に関わる個人や事業者等に対し、適切な取扱いが求められています。

1～5巡目調査の確認河川数の比較

種類	1巡目調査 (76河川)	2巡目調査 (119河川)	3巡目調査 (122河川)	4巡目調査 (123河川)	5巡目調査 (107河川)
ブルーギル	29河川 〔38.2〕	68河川 〔57.1〕	69河川 〔56.6〕	77河川 〔62.6〕	67河川 〔62.6〕
オオクチバス	37河川 〔48.7〕	78河川 〔65.5〕	83河川 〔68.0〕	82河川 〔66.7〕	74河川 〔69.2〕
コクチバス	0河川 〔0.0〕	3河川 〔2.5〕	5河川 〔4.1〕	11河川 〔8.9〕	17河川 〔15.9〕
チャンネルキャット フィッシュ	3河川 〔3.9〕	2河川 〔1.7〕	3河川 〔2.5〕	7河川 〔5.7〕	9河川 〔8.4〕
カダヤシ	9河川 〔11.8〕	20河川 〔16.8〕	23河川 〔18.9〕	29河川 〔23.6〕	30河川 〔28.0〕



- ※ 確認河川数の比較は、調査実施全河川のうち、直轄管理区間のデータを対象とした。
- ※ 1～4巡目のデータは、調査実施全河川のうち、種名等について真正化され、河川環境データベースに格納されている調査データを対象にした。
- ※ ()内は調査実施河川数を示す。
- ※ []内は確認河川数の調査実施河川数に対する割合 (%)を示す。
- ※ 5巡目調査のデータはH23～H26調査の合計

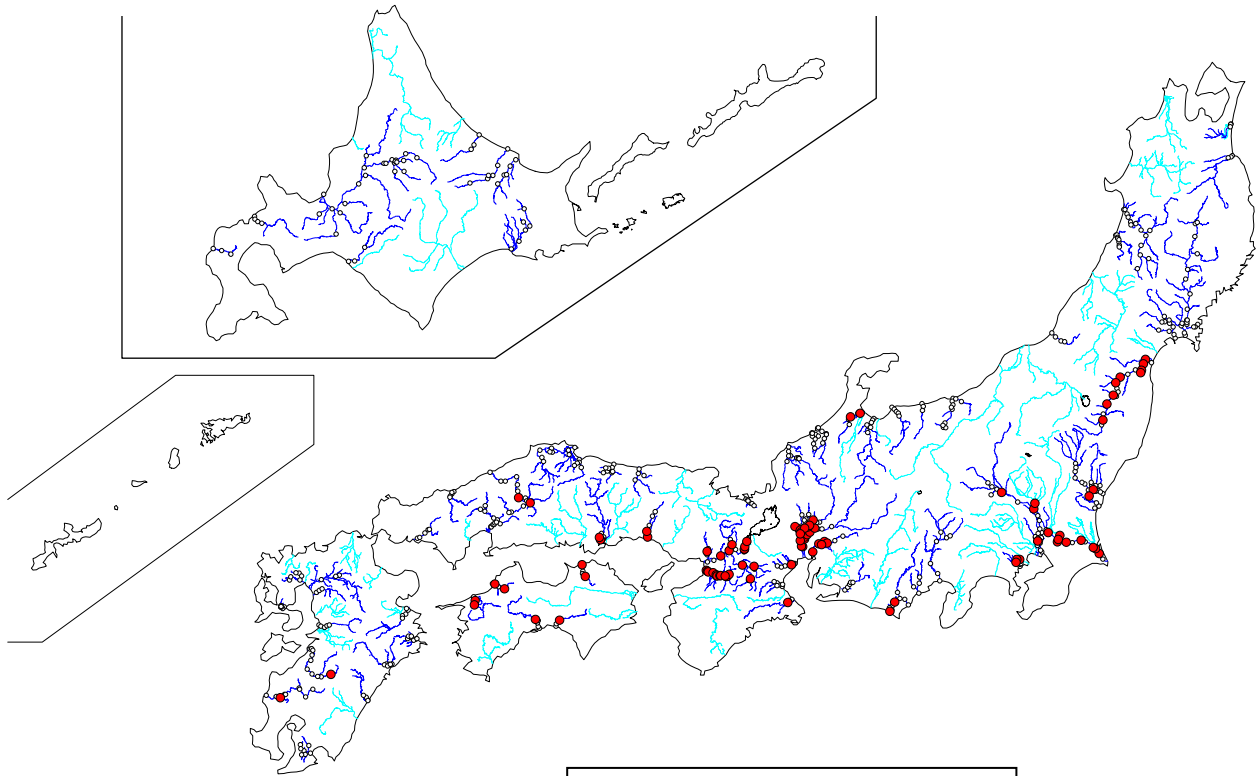
コクチバスは、今回とりまとめを行った39河川（一級河川の直轄管理区間）のうち、9河川で確認されました。4巡目と5巡目を比較すると中部地方、近畿地方、北陸地方へ確認範囲が広がっており分布の侵入・拡大傾向がみられました。

チャンネルキャットフィッシュは、近畿地方で初めて確認されましたが、関東地方、東北地方の同一水系内で確認範囲が広がっており、分布の拡大傾向がみられました。

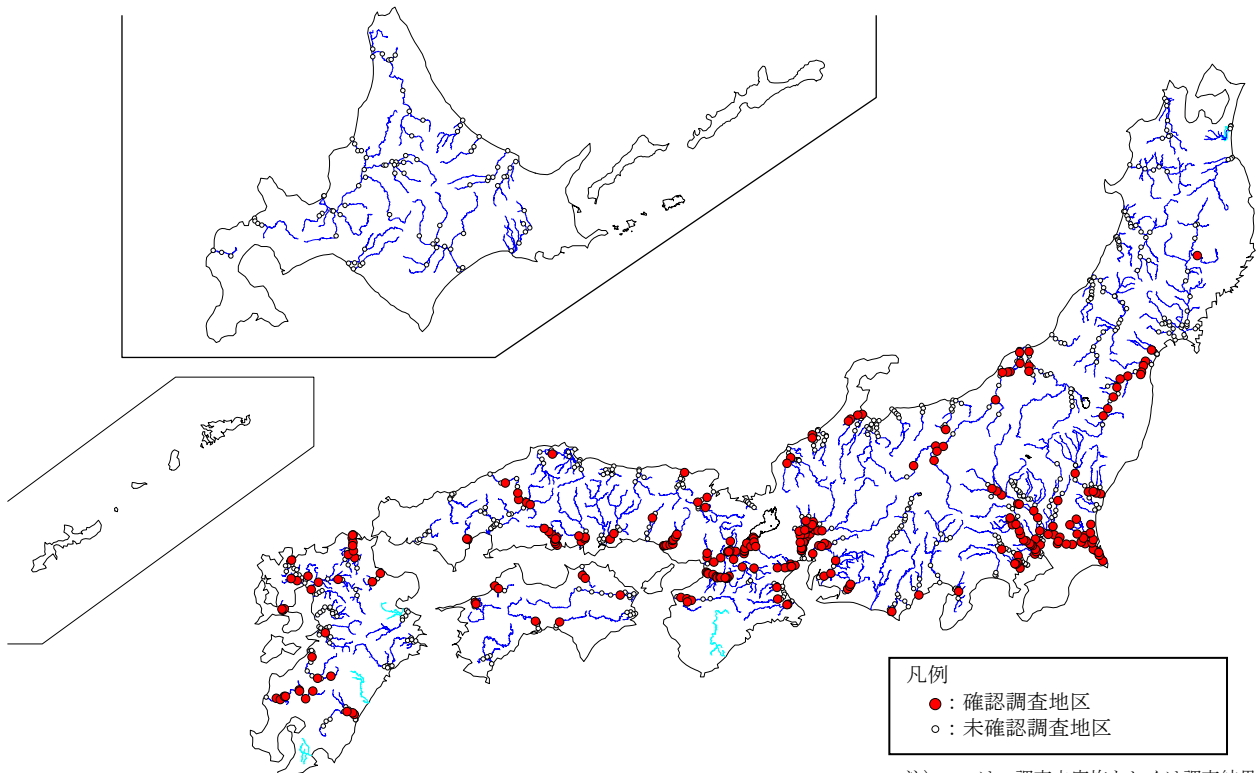
カダヤシは、ブルーギル、オオクチバスほど確認範囲は広くないものの、分布が若干拡大している傾向がみられました。

ブルーギルとオオクチバスは、東北地方から九州地方までの範囲で確認が継続しており、停滞傾向と定着が示唆されました。

1 巡目調査（平成 2～7 年度）



2 巡目調査（平成 8～12 年度）



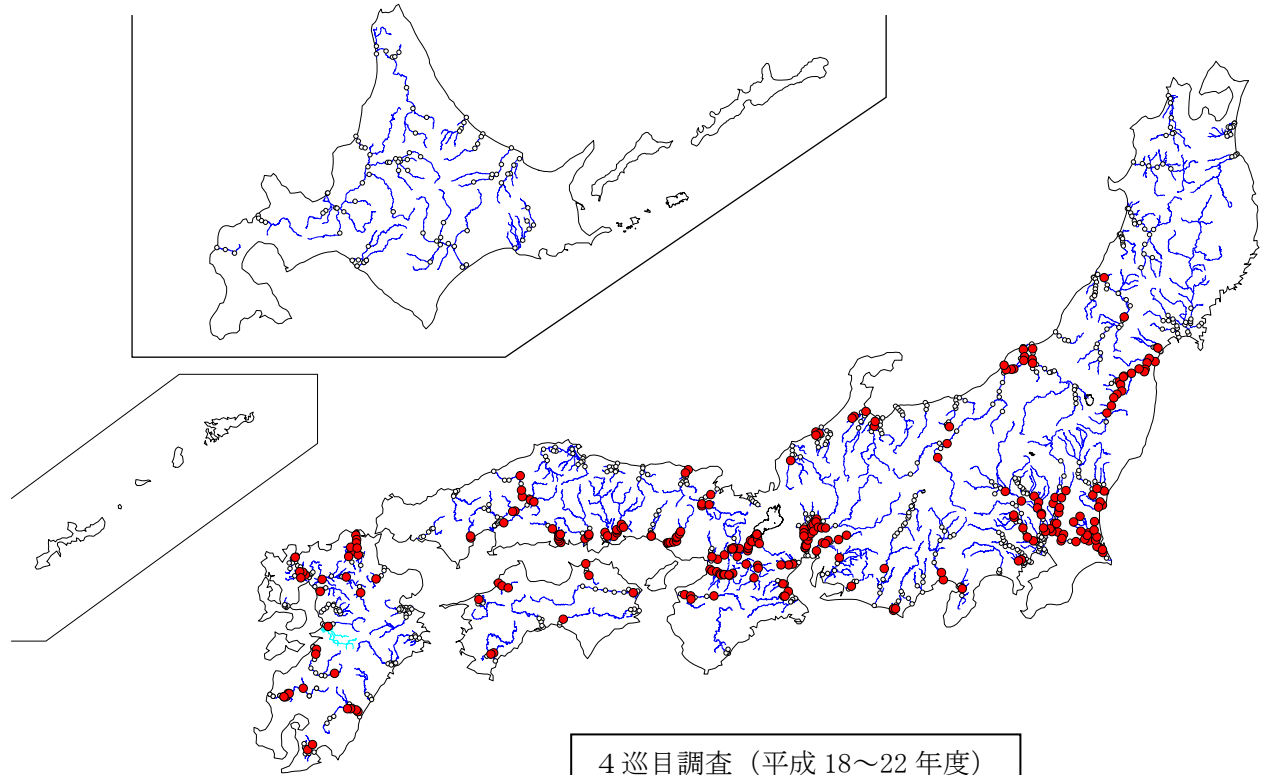
凡例

- : 確認調査地区
- : 未確認調査地区

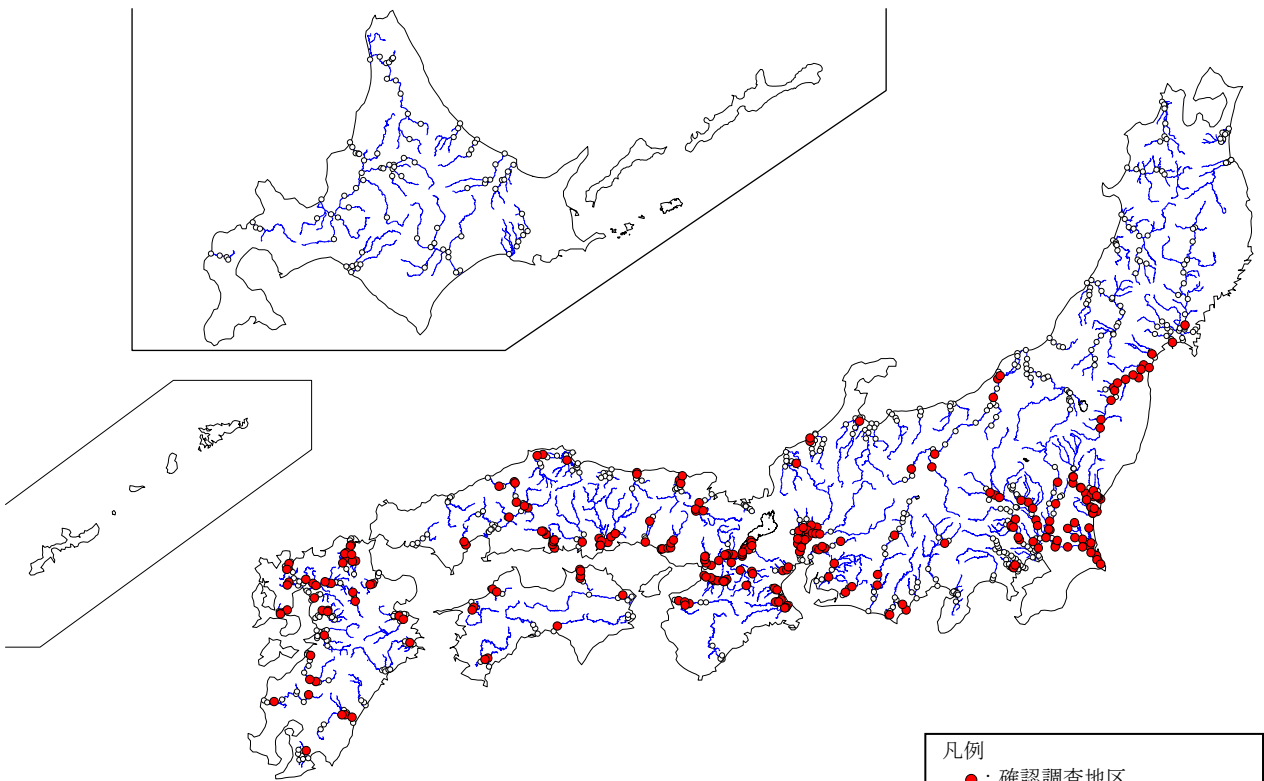
注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

ブルーギルの確認された地域（1 巡目調査、2 巡目調査）

3 巡目調査（平成 13～17 年度）



4 巡目調査（平成 18～22 年度）



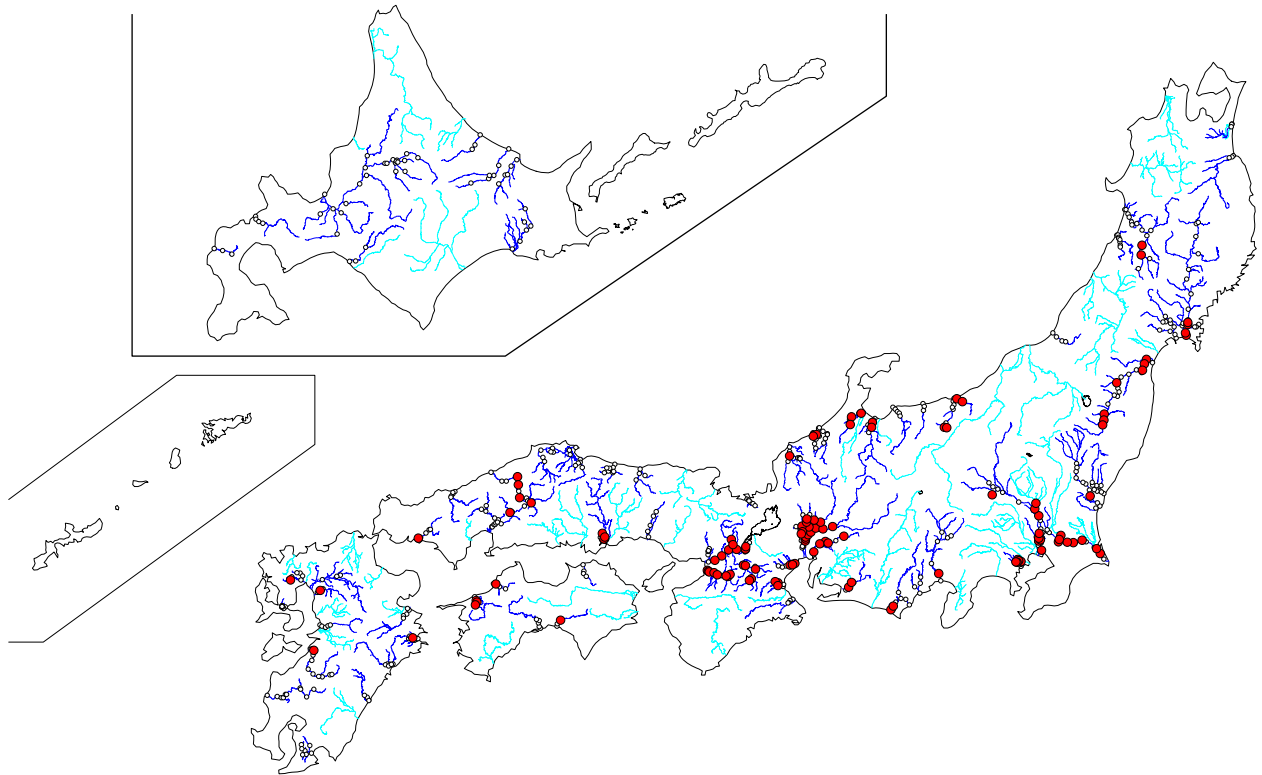
凡例

- : 確認調査地区
- : 未確認調査地区

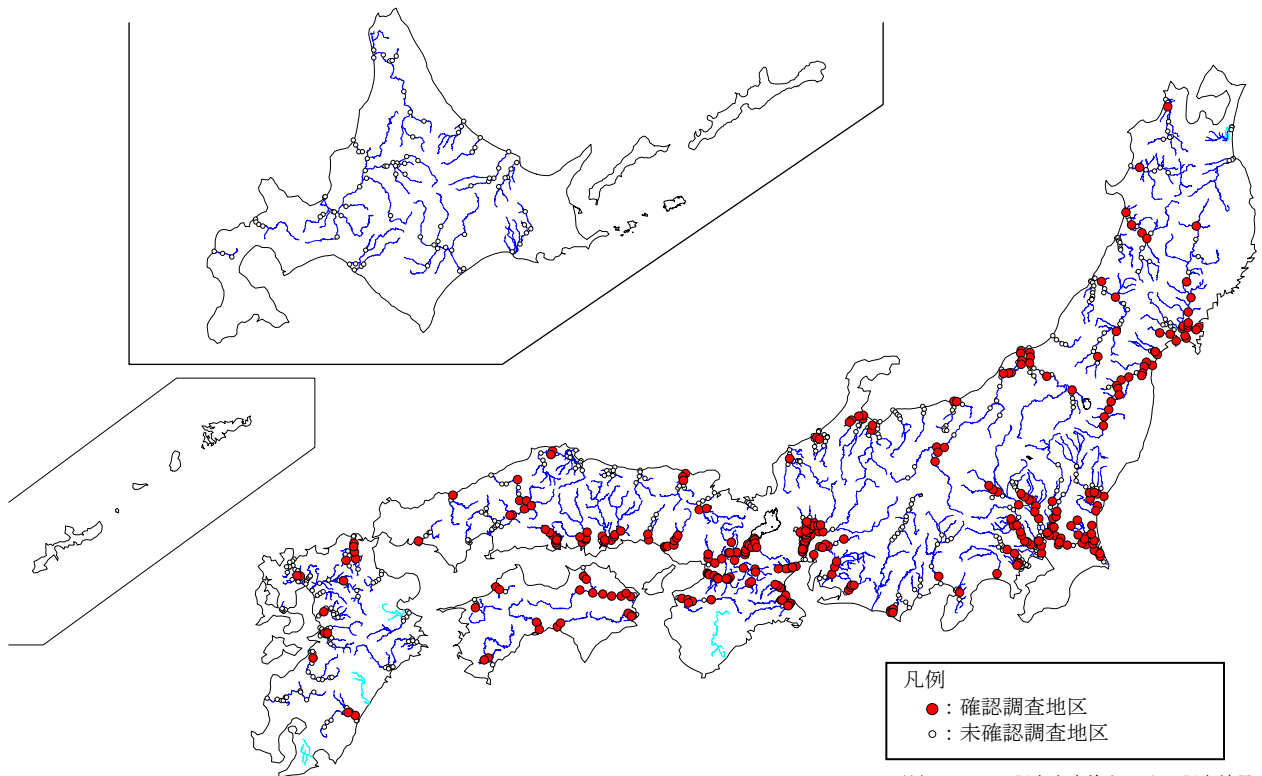
注) — は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

ブルーギルの確認された地域（3 巡目調査、4 巡目調査）

1 巡目調査（平成 2～7 年度）



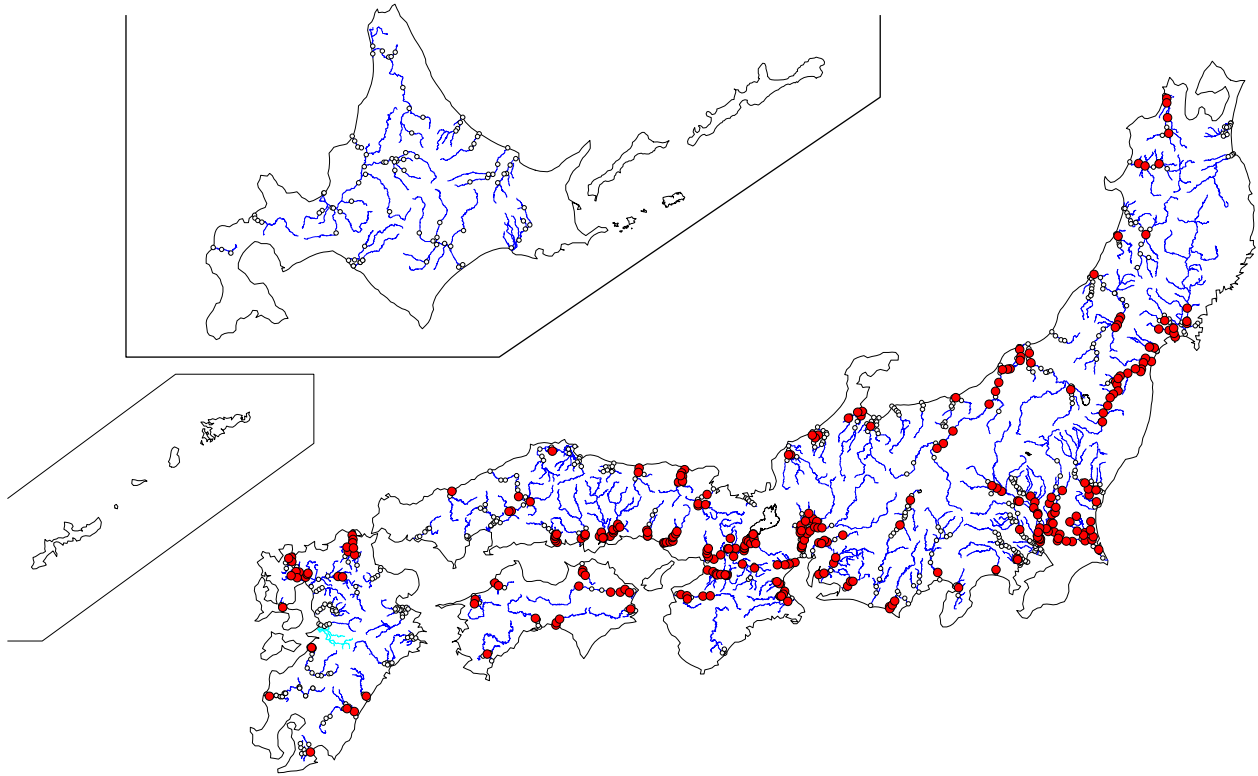
2 巡目調査（平成 8～12 年度）



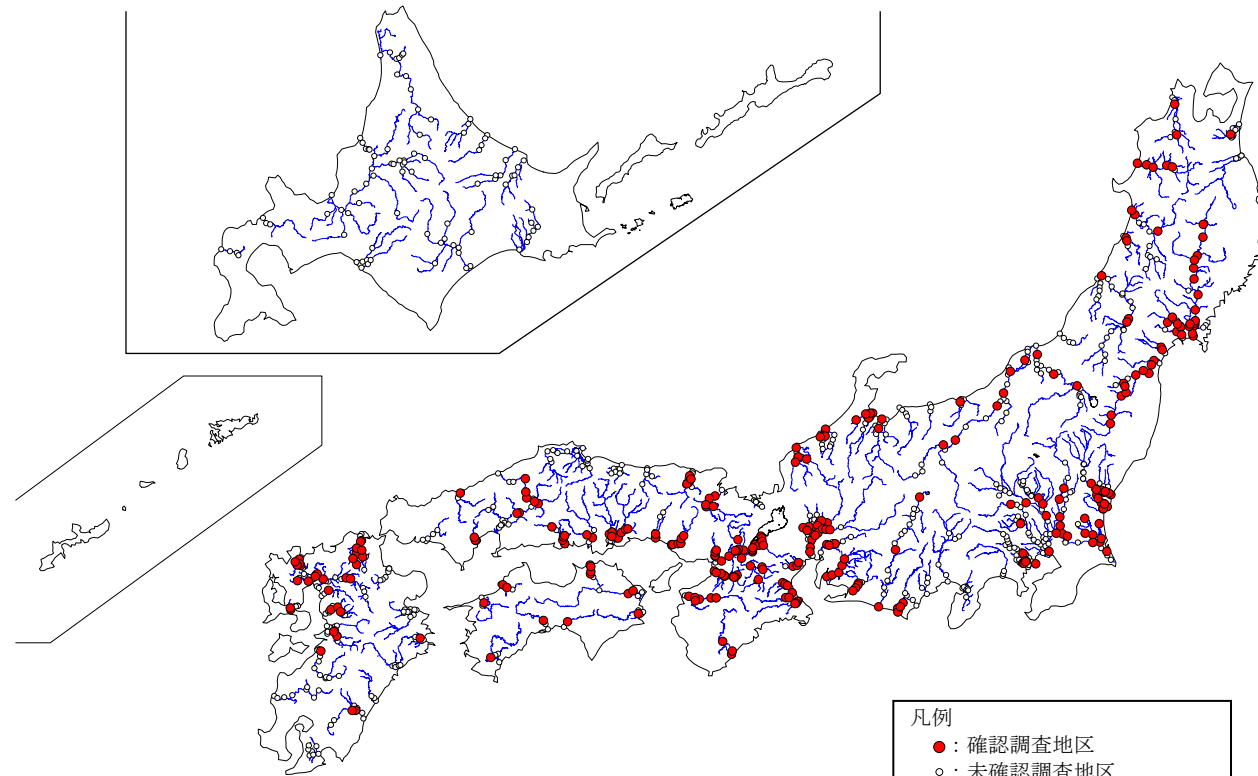
注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

オオクチバスの確認された地域（1 巡目調査、2 巡目調査）

3 巡目調査（平成 13～17 年度）



4 巡目調査（平成 18～22 年度）



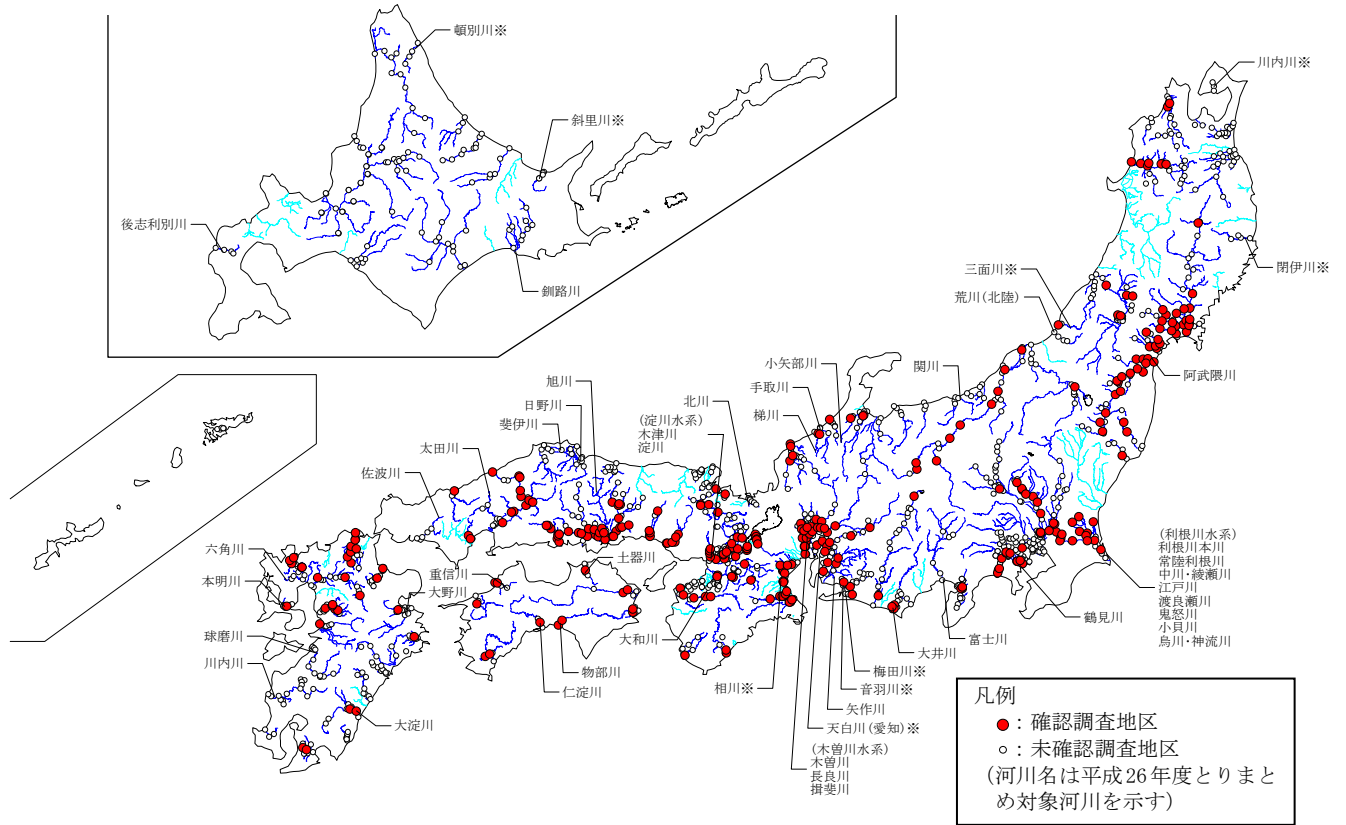
凡例

- : 確認調査地区
- : 未確認調査地区

注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

オオクチバスの確認された地域（3 巡目調査、4 巡目調査）

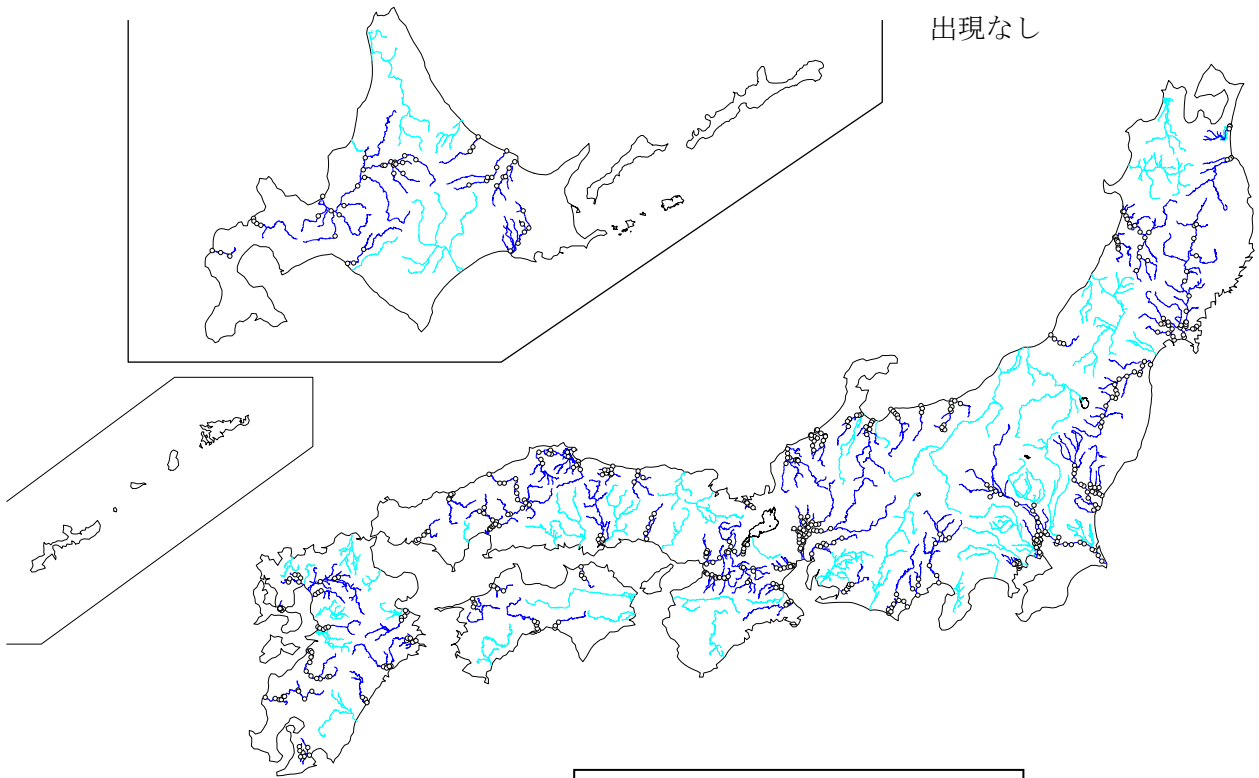
5 巡目調査（平成 23～26 年度）



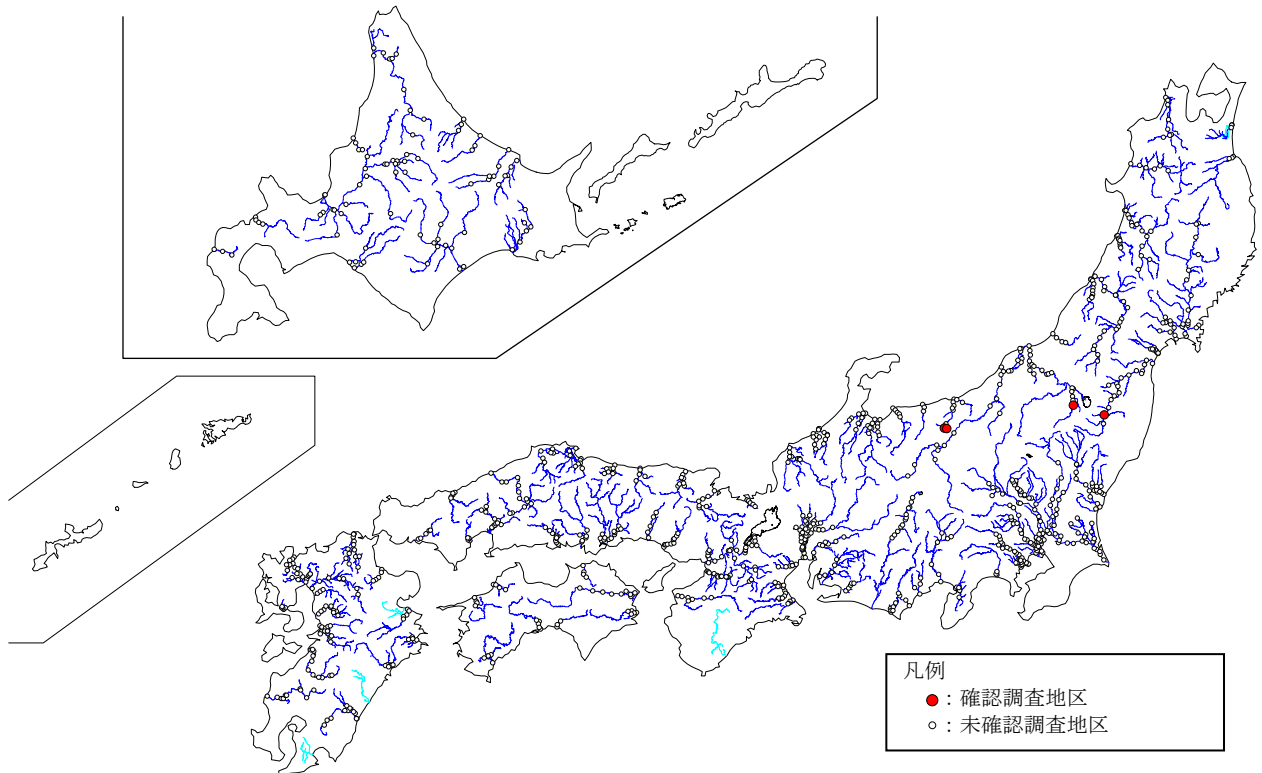
注1) 〓は、調査未実施の河川を示す。
 注2) 5 巡目調査には、一級水系指定区間および二級水系での調査を含む。
 注3) ※は、二級水系（河川）を示す。

オオクチバスの確認された地域（5 巡目調査）

1 巡目調査（平成 2～7 年度）



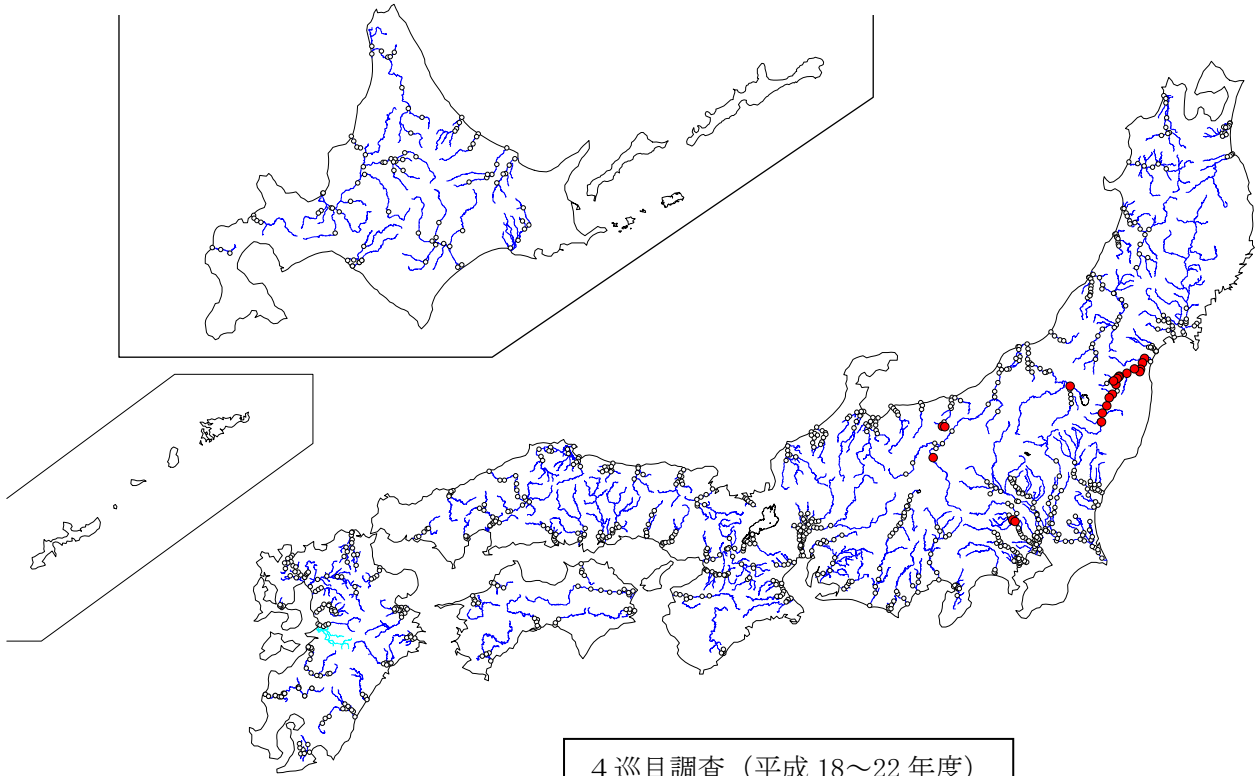
2 巡目調査（平成 8～12 年度）



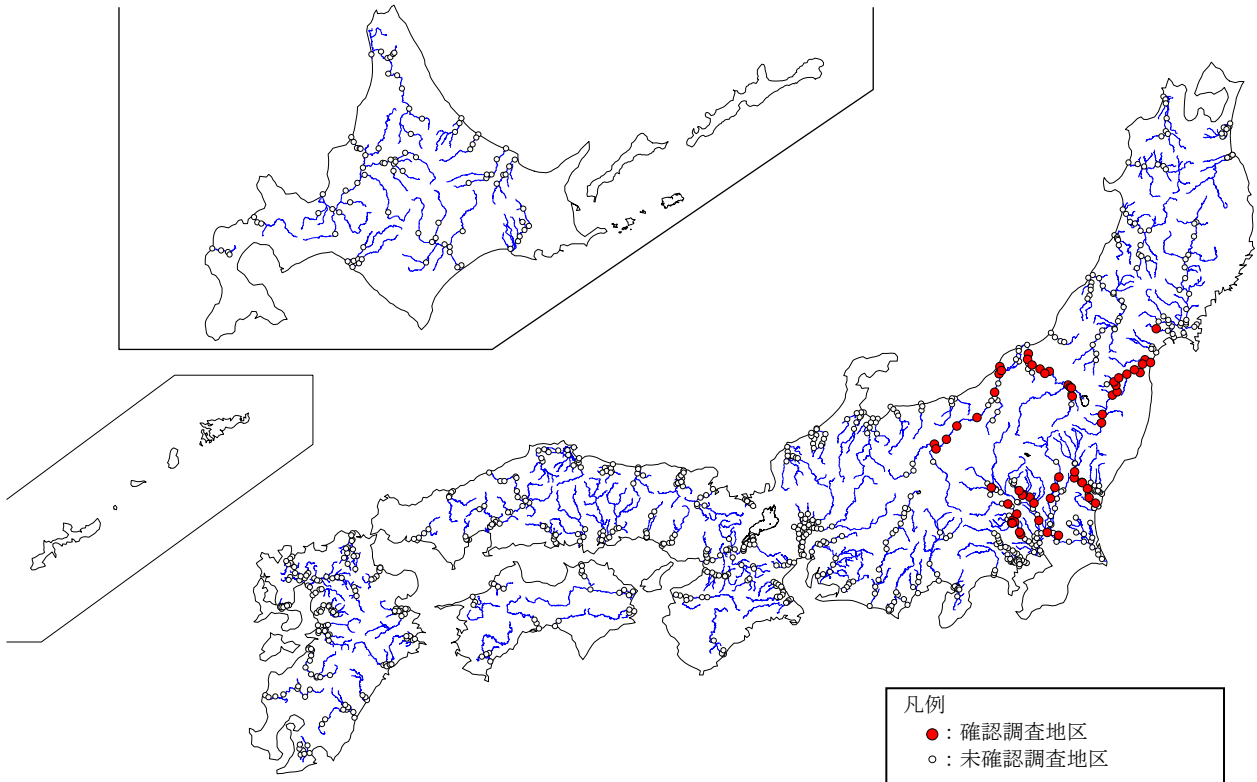
注) — は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

コクチバスの確認された地域（1 巡目調査、2 巡目調査）

3 巡目調査（平成 13～17 年度）



4 巡目調査（平成 18～22 年度）

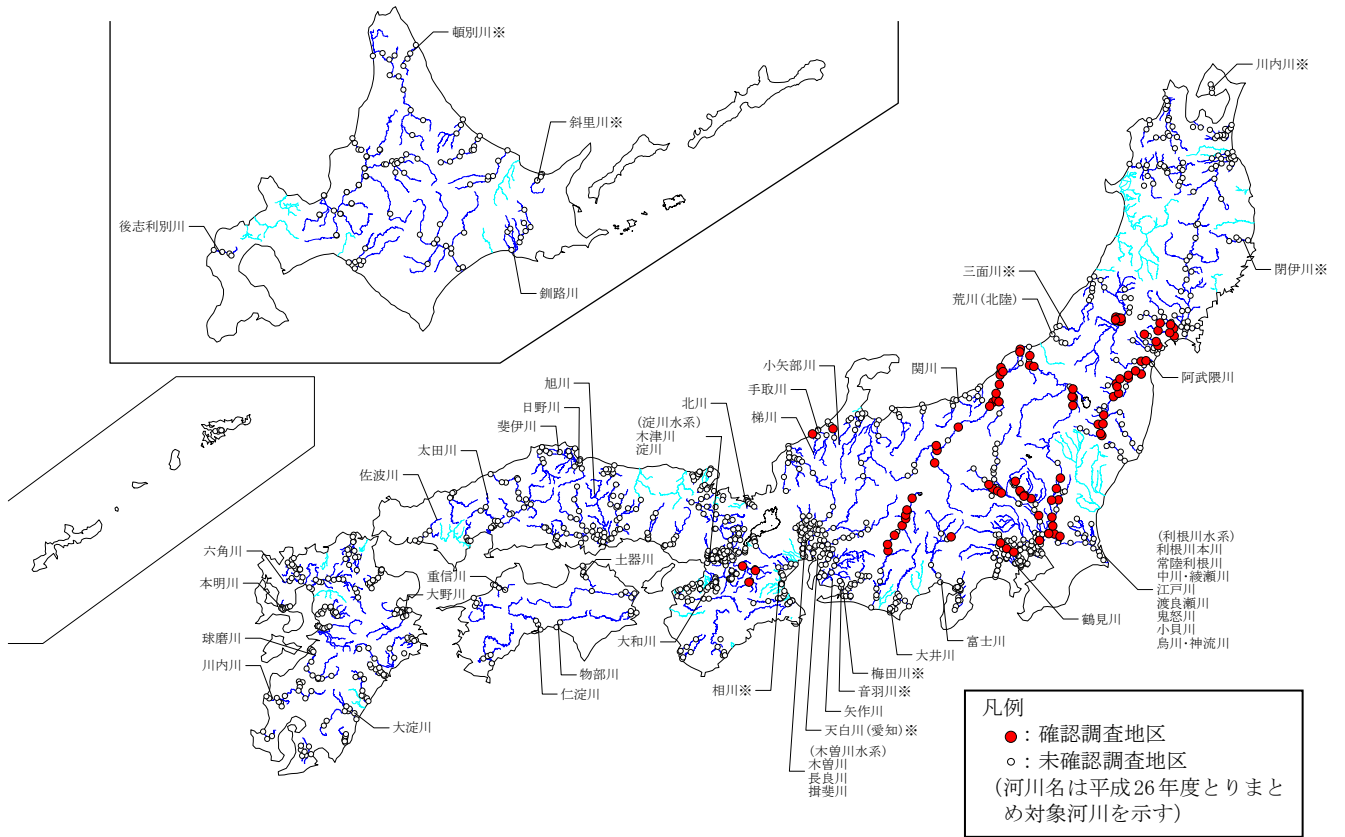


- 凡例
- : 確認調査地区
 - : 未確認調査地区

注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

コクチバスの確認された地域（3 巡目調査、4 巡目調査）

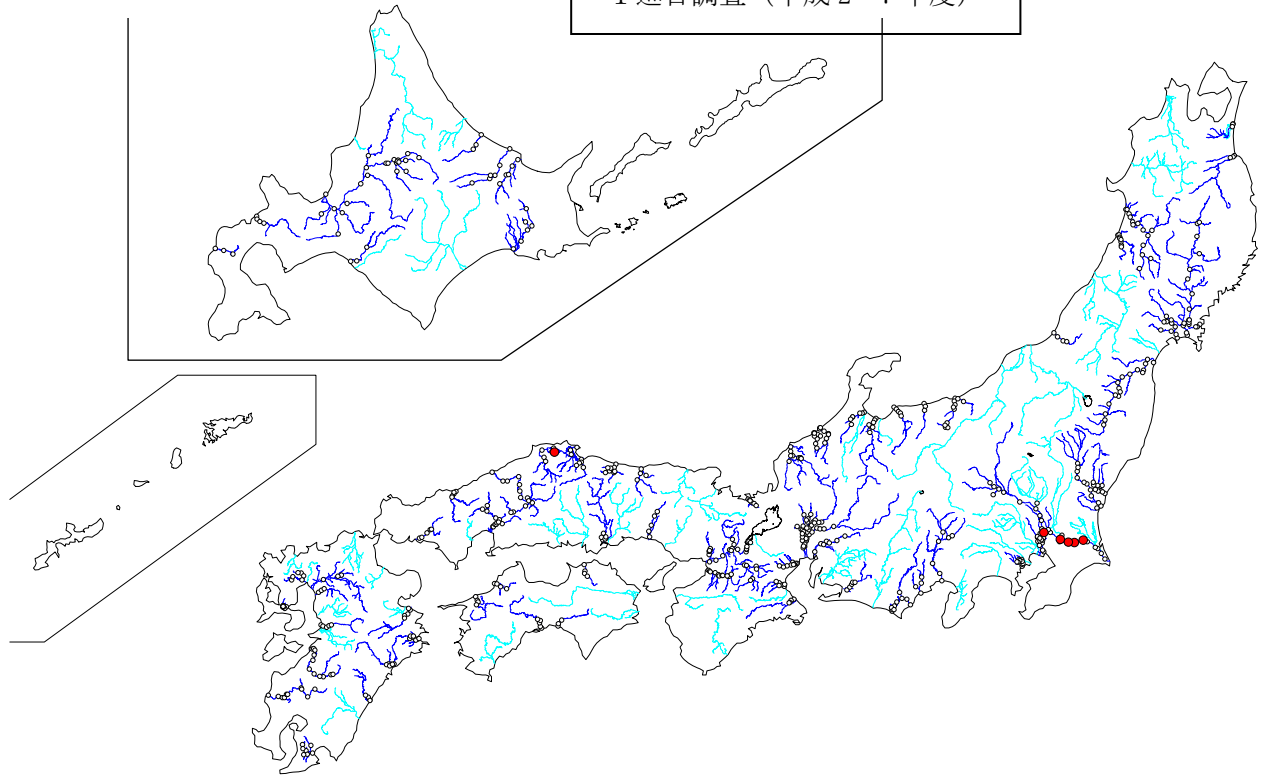
5 巡目調査（平成 23～26 年度）



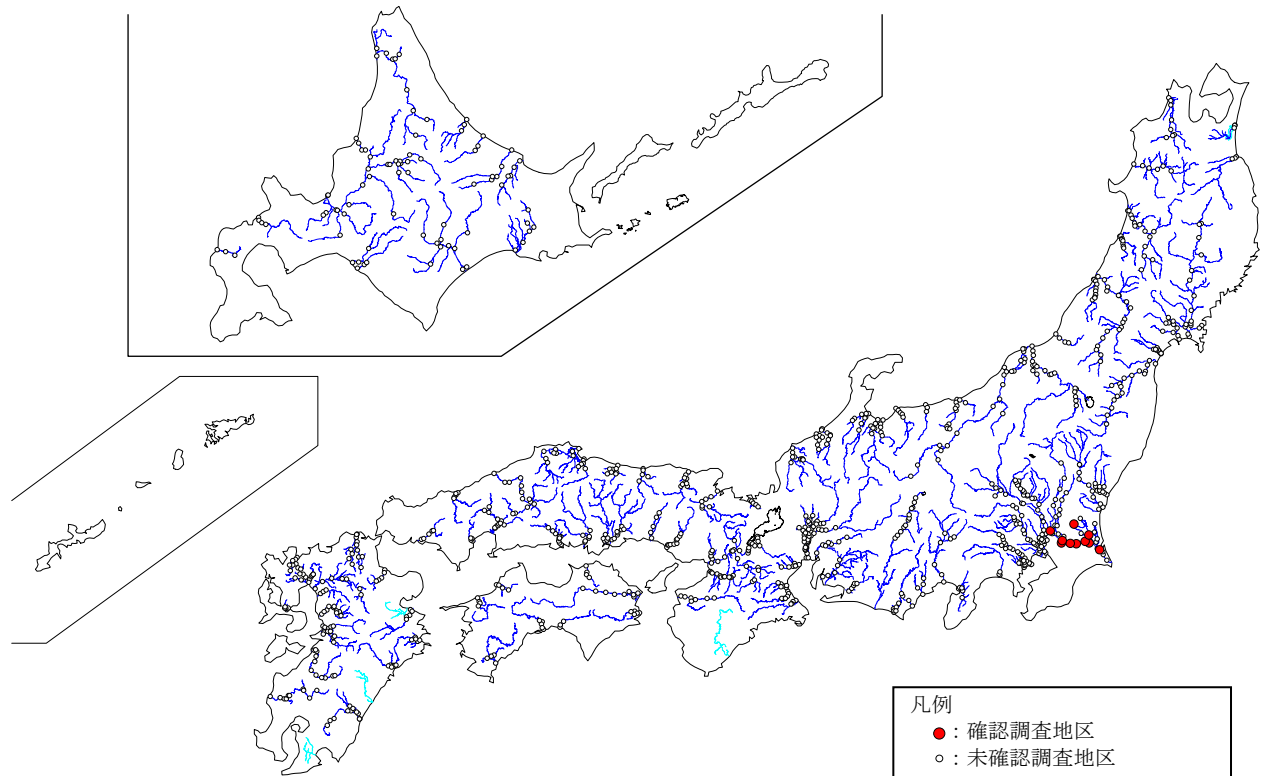
注 1) 浅藍色は、調査未実施の河川を示す。
 注 2) 5 巡目調査には、一級水系指定区間および二級水系での調査を含む。
 注 3) ※は、二級水系（河川）を示す。

コクチバスの確認された地域（5 巡目調査）

1 巡目調査（平成 2～7 年度）



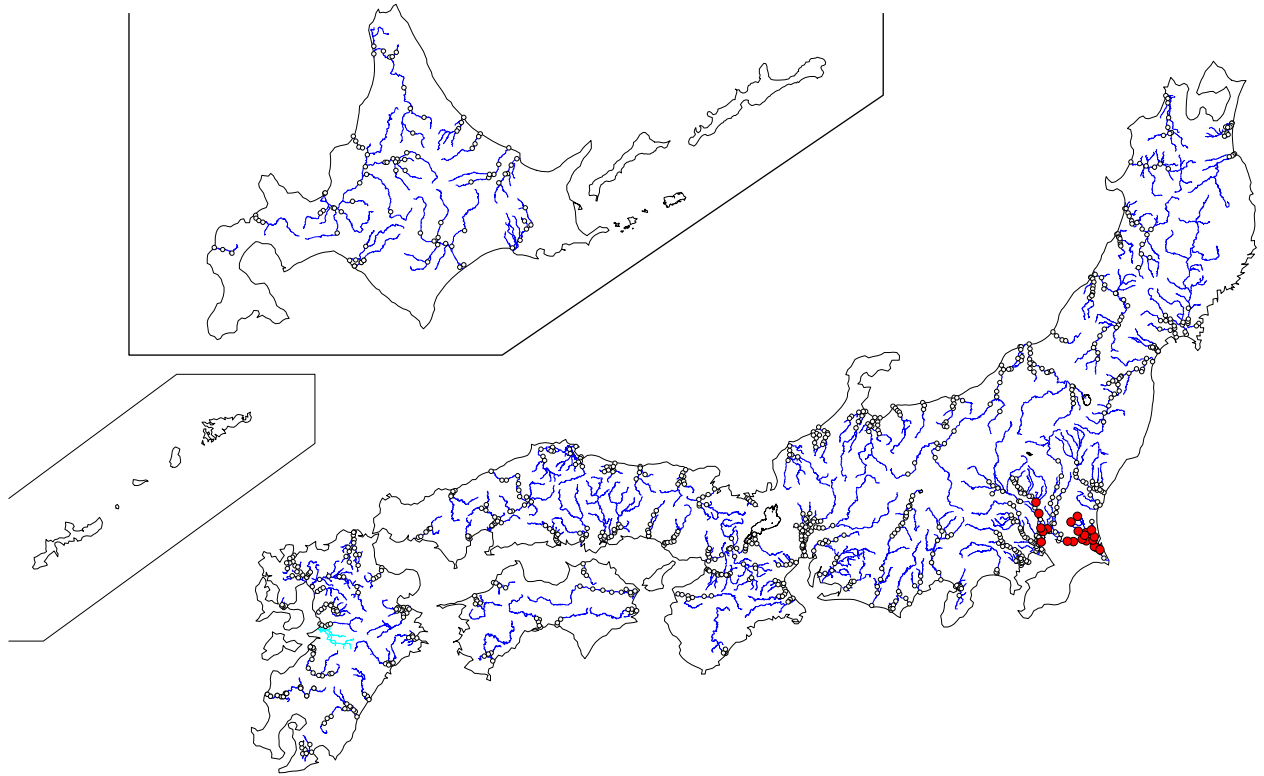
2 巡目調査（平成 8～12 年度）



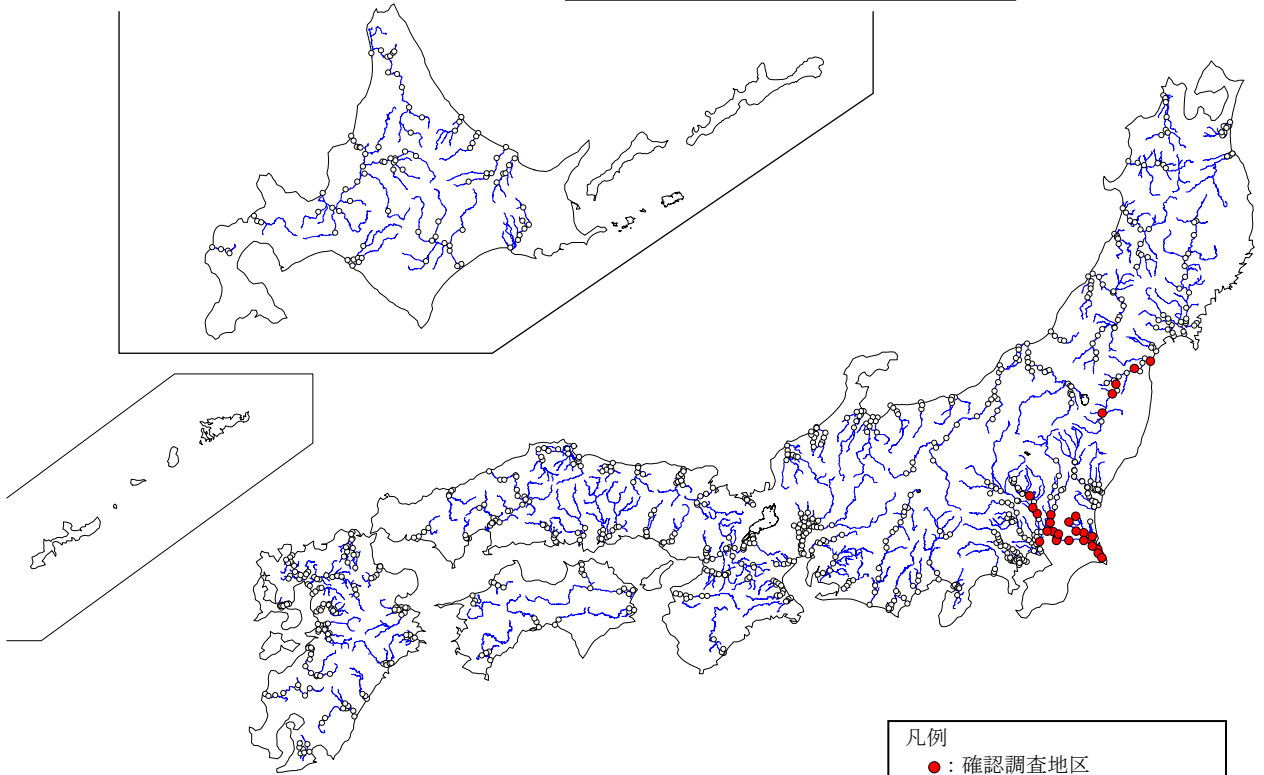
注) — は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

チャネルキャットフィッシュの確認された地域（1 巡目調査、2 巡目調査）

3 巡目調査（平成 13～17 年度）



4 巡目調査（平成 18～22 年度）



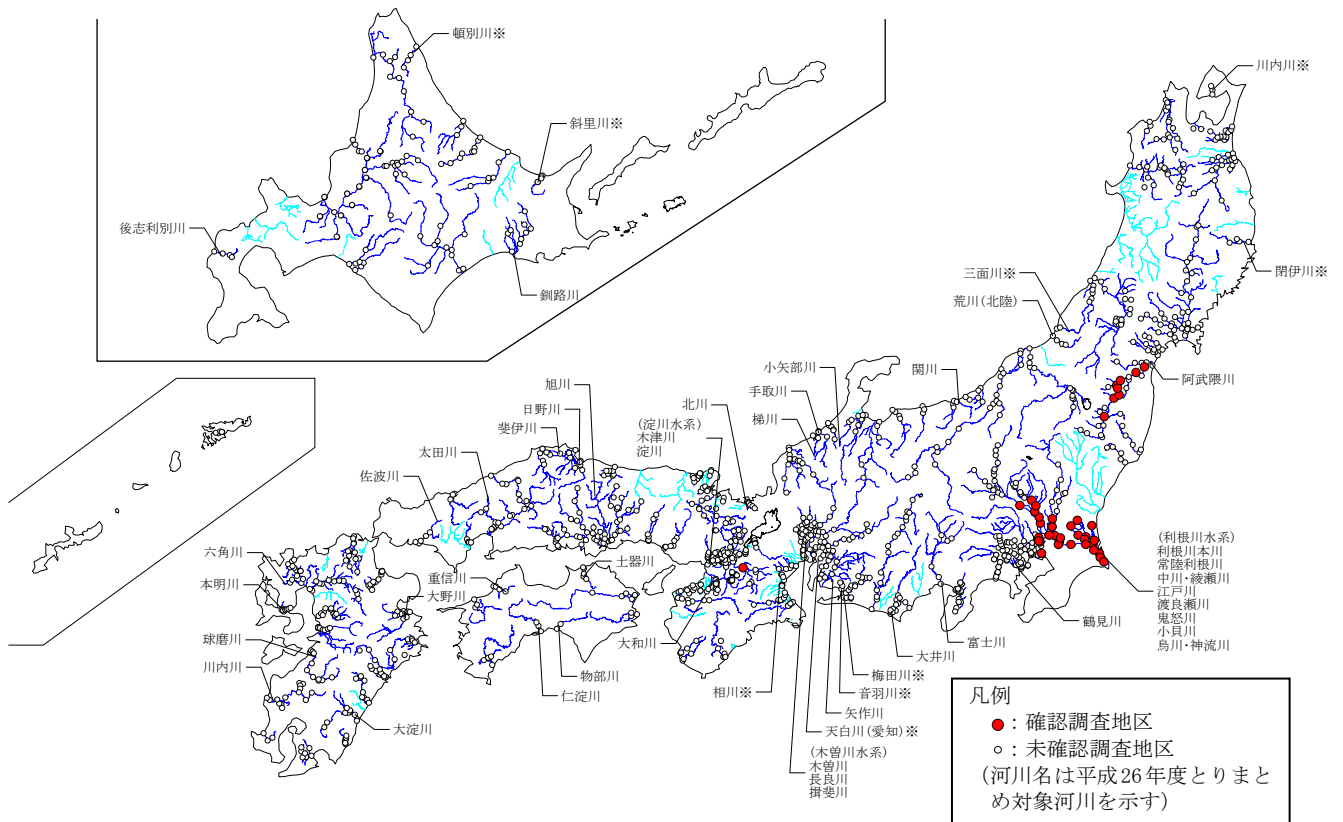
凡例

- : 確認調査地区
- : 未確認調査地区

注) — は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

チャンネルキャットフィッシュの確認された地域（3 巡目調査、4 巡目調査）

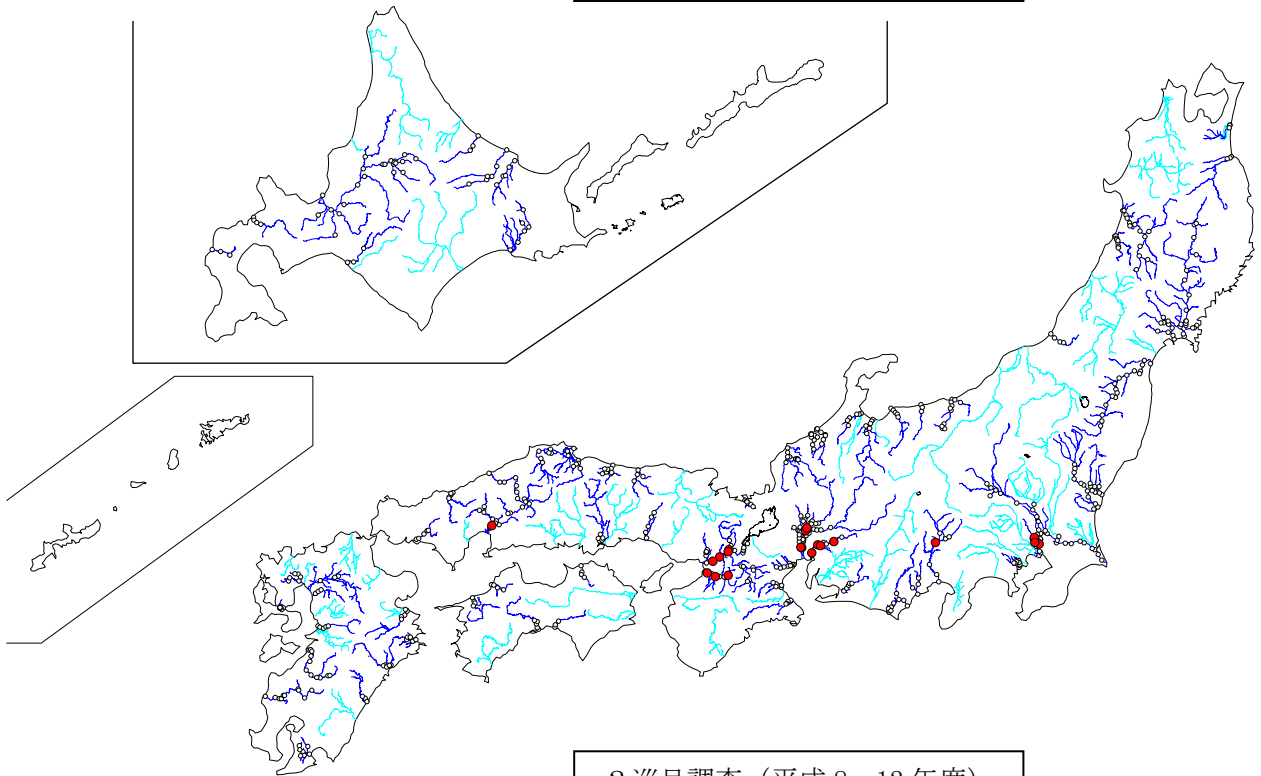
5 巡目調査（平成 23～26 年度）



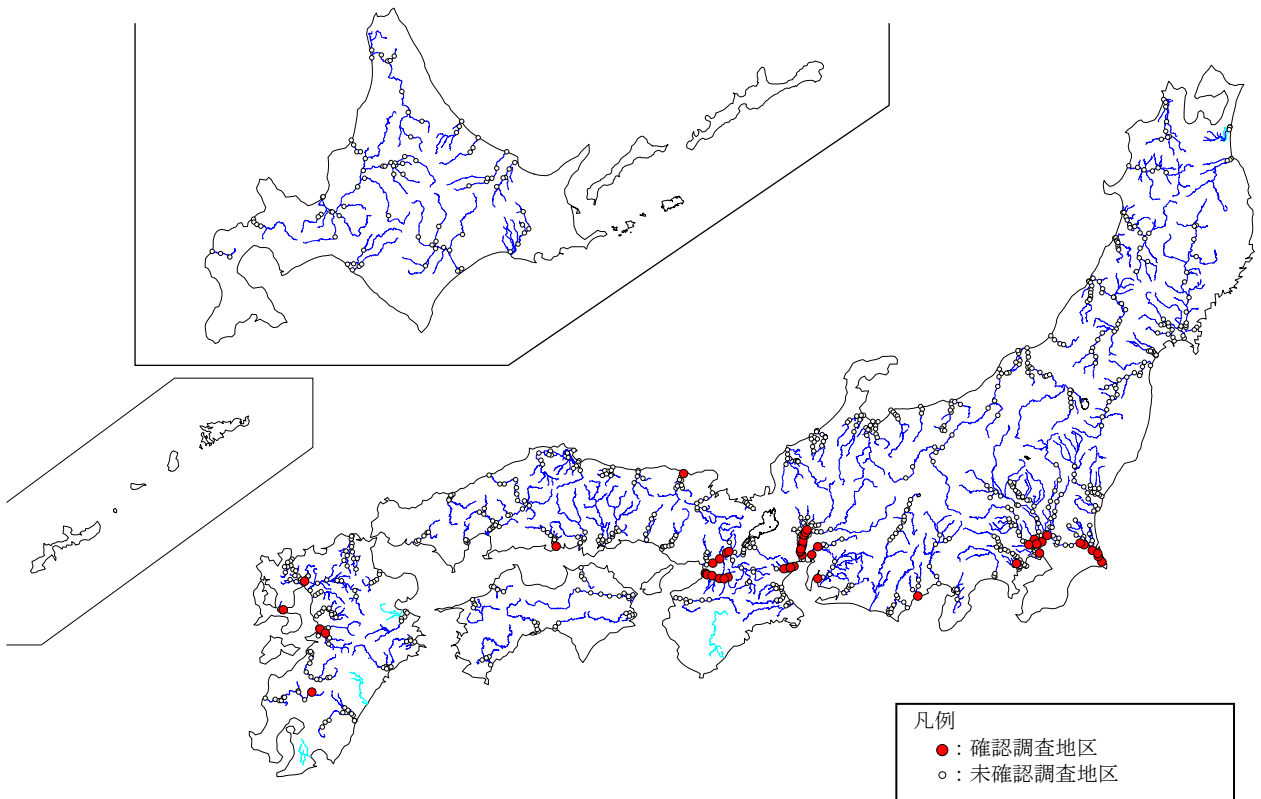
注 1) 〓は、調査未実施の河川を示す。
 注 2) 5 巡目調査には、一級水系指定区間および二級水系での調査を含む。
 注 3) ※は、二級水系（河川）を示す。

チャンネルキャットフィッシュの確認された地域（5 巡目調査）

1 巡目調査（平成 2～7 年度）



2 巡目調査（平成 8～12 年度）



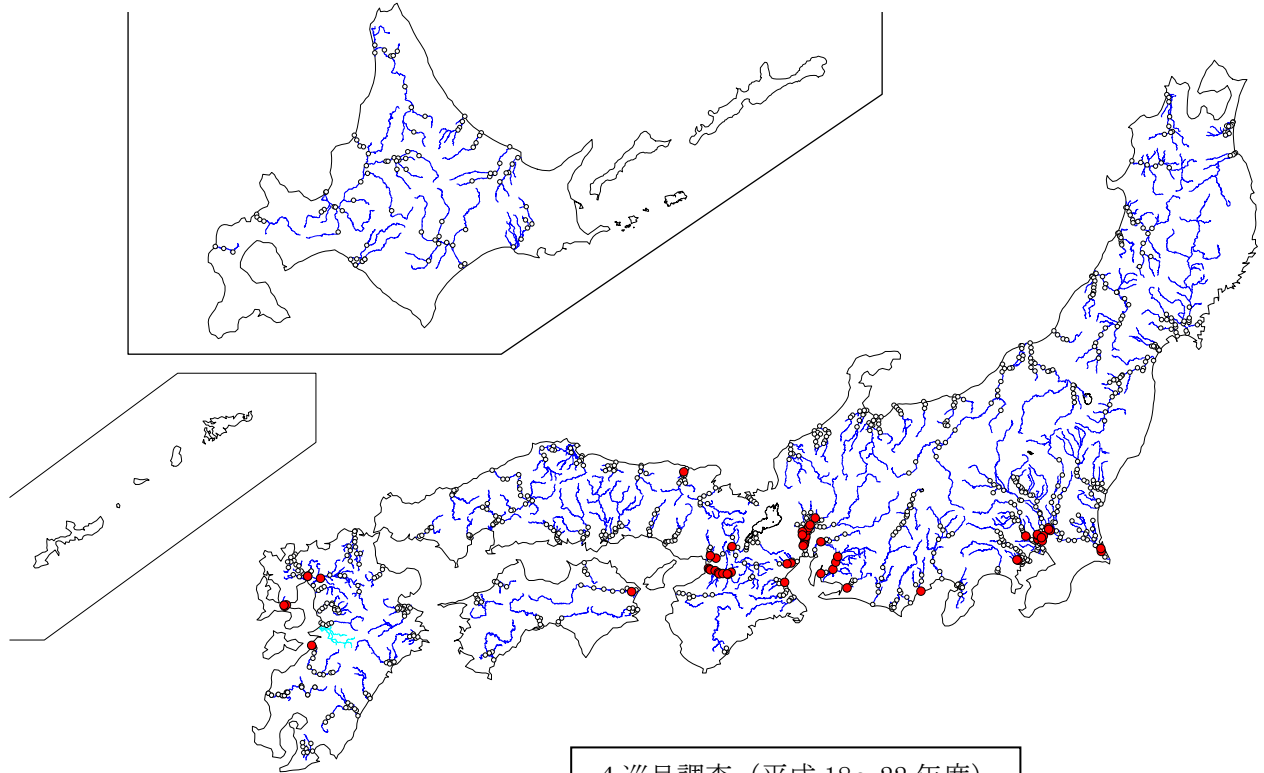
凡例

- : 確認調査地区
- : 未確認調査地区

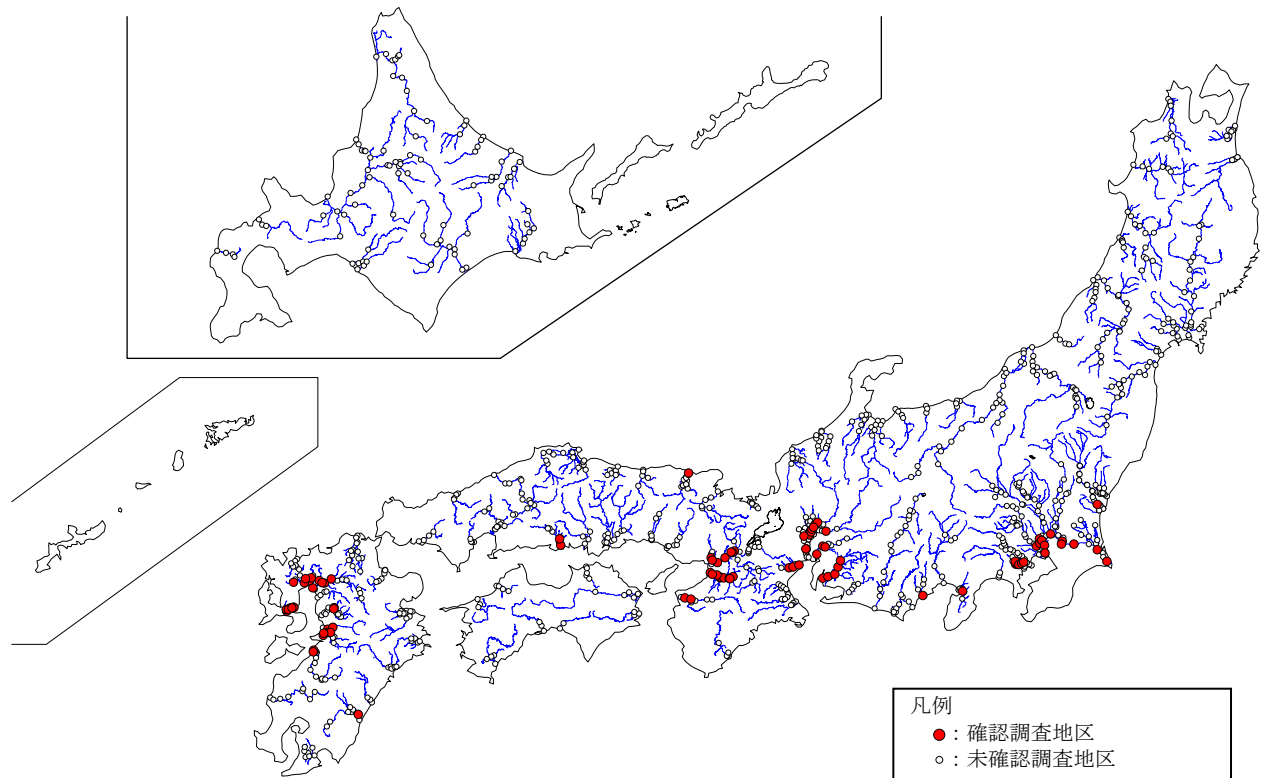
注) — は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

カダヤシの確認された地域（1 巡目調査、2 巡目調査）


3 巡目調査 (平成 13～17 年度)



4 巡目調査 (平成 18～22 年度)

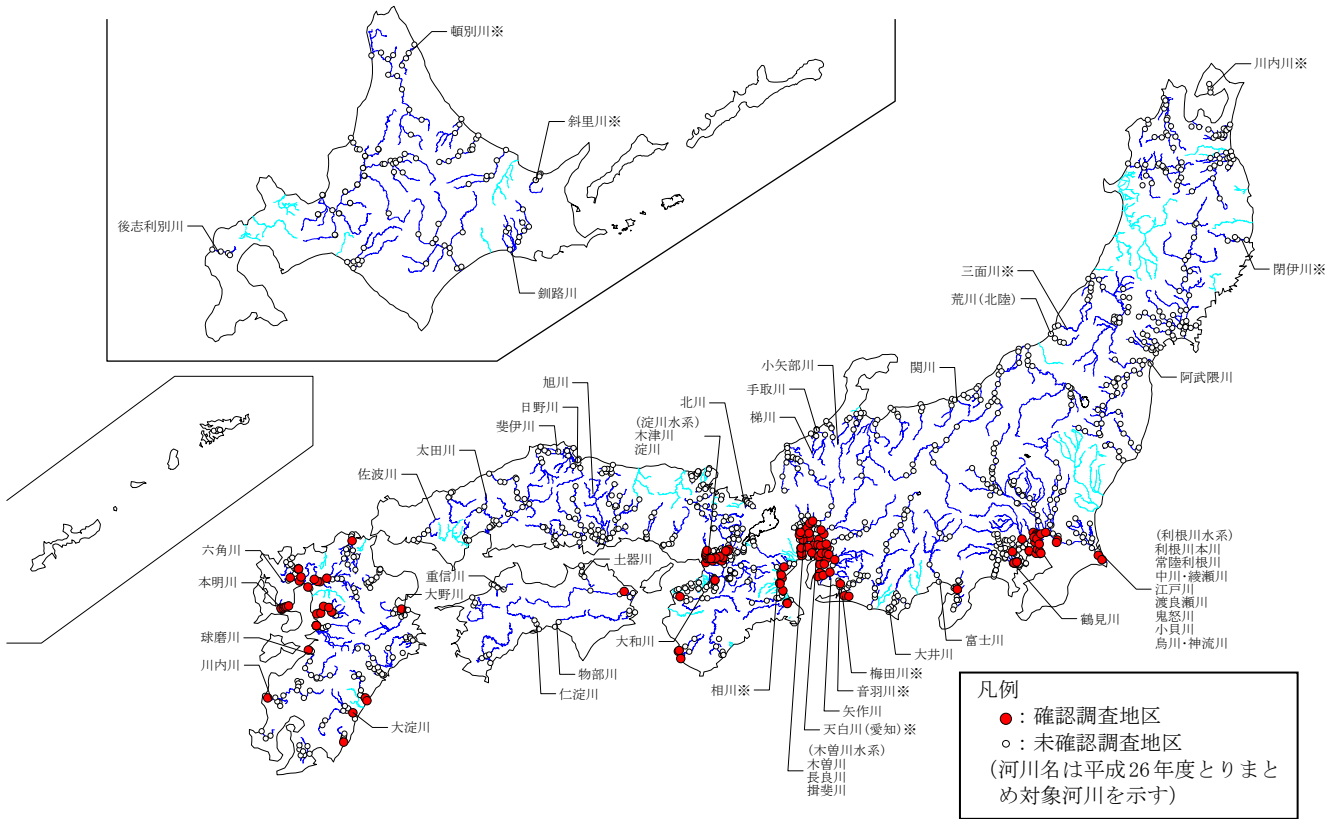


- 凡例
- : 確認調査地区
 - : 未確認調査地区

注)  は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

カダヤシの確認された地域 (3 巡目調査、4 巡目調査)

5 巡目調査（平成 23～26 年度）



注1) 浅藍色は、調査未実施の河川を示す。
 注2) 5巡目調査には、一級水系指定区間および二級水系での調査を含む。
 注3) ※は、二級水系（河川）を示す。

カダヤシの確認された地域（5巡目調査）